おんがく広場 ♪Music Square♬ 第173号
Facebook,Twitterにも掲載／リンクフリー／御自由にコピーして下さい　令和2年(2020)4月10日創刊
令和4年（2022）5月17日（火）
発行・クッキー会　発行責任者・加藤良一
連絡先　rkato@max.hi-ho.ne.jp

クッキー会　新祖　章　*SHINSO Akira*
全日本合唱連盟関東支部事務局長／埼玉県合唱連盟参与

5月15日(日)、『おんがく広場』第165号(4/8)で紹介された「下總皖一没後60年記念コンサート･古澤真紀子 みどりのそよ風コンサート」を聴きに行った。会場は栗橋文化会館イリスホール(埼玉県久喜市)。埼玉県の宮代、川里、桶川と続く4回公演の皮切りだ。

着物で歌う日本歌曲に感嘆！

会場は6割くらいの入り。コンサートは二部構成で、出演者は**古澤真紀子**(宮代町)のほか、ピアノ伴奏が**町田百合絵**(川越市)、ピアノソロが**倉本眞理**(富士見市)。

第一部は始めに日本の童謡、北原白秋作詞・山田耕筰作曲「この道」「砂山」はじめ6曲。次にピアノソロで「川の流れのように」など2曲。続いて「ほたる」「たなばたさま」など**下総皖一**メドレーで5曲。さらにピアノソロで幻想曲「さくらさくら」。そして最後に野上彰作詞・小林秀雄作曲の「落葉松」で締めくくった。

道の駅 童謡のふるさと おおとね の前に建つ下總皖一像

古澤が第一部着物で登場したのにはびっくり。ソプラノからメゾソプラノに転向したというが、張りのある美声と豊かな声量で、童謡が多いにもかかわらず情景が目に浮かぶように情感たっぷりに歌い上げ、聴衆を魅了した。倉本のピアノは低音が独特な響きで豪快な演奏だった。

第二部は始めに佐藤宏作詞・作曲の「ありがとう」と武満徹作詞・作曲の「翼」の2曲。続いてピアノソロでショパンのバラード1番など2曲。最後はヘンデル作曲「セルセ」より「いとしい木陰よ(オンブラマイフ)」、モーツァルト作曲「フィガロの結婚」より「恋とはどんなものか」、ロッシーニ作曲「セビリアの理髪師」より「今の歌声は」、ビゼー作曲オペラ『カルメン』より「ハバネラ」、オペラのアリア4曲という構成だった。

「ありがとう」という曲は初めて聴いたが、歌詞に「ありがとう」という言葉が何回も登場してきて是非合唱曲として歌いたいと思った。オペラのアリアは圧巻。日本の歌では少し加減して歌っていたような感じもあったが、オペラのアリアではエンジン全開で、特に「今の歌声は」で魅せた軽快なコロラトゥーラは最高。

今まさにあぶらがのりきっているという感じだ。オペラ歌手古澤真紀子の本領発揮であった。

アンコールはピアノが「トルコ行進曲」、歌は私の大好きな武満徹の「小さな空」だった。久しぶりに幸せな気分に浸りつつ、栗橋駅前で静御前の墓参りをして帰路に着いた。

下總皖一（しもおさかんいち）

下總皖一(本名:覚三)は、明治31年(1898)3月31日、埼玉県北埼玉郡原道村(現加須（かぞ）市)に生まれた。原道小学校を卒業後、4km離れた栗橋尋常高等小学校(高等科)に進学し、長い道のりを毎日徒歩で通った。学校のオルガンに魅せられ音楽の道を志した。大正6年(1917)、東京音楽学校(現東京藝術大学)へ進学、首席で卒業後、長岡女子師範学校、秋田高等女学校、岩手師範学校、栃木師範学校での7年間の地方赴任を終え東京に戻った。その後、東京で5年間教鞭をとり、昭和7年(1932)ドイツへ留学し、パウル・ヒンデミットに師事した

昭和9年(1934)ドイツから帰国したのち著した理論書「和声学」はヒンデミットから賞賛された。その後、「作曲法」「日本音階の話」「作曲法入門」「楽典」「対位法」など多くを著し、日本近代音楽の基礎を創ったとされ、和声学の神様もいわれている。

昭和17年(1942)、44歳で東京音楽学校教授となる。昭和31年(1956)に58歳で東京藝術大学音楽学部長となる。

作曲分野は極めて広く、「たなばたさま」「花火」「野菊」「ほたる」などの童謡以外に、合唱曲、器楽曲、協奏曲、さらに日本の伝統音楽など多岐にわたっている。また、校歌を作曲は全国45都道府県にわたり、その数400～500曲といわれている。昭和37年(1962)、64歳で他界した。

下總皖一は、芥川也寸志、石桁真礼生、金井喜久子、團伊玖磨、土肥泰など著名な作曲家を多数輩出している。女声合唱団ヴォーチェ・ビアンカ指揮者／男声合唱団コール・グランツ元指揮者・鎌田弘子先生もその門下生のお一人である。

生誕地加須市内に関連資料を集めた「おおとね童謡のふる里室」がある。

クッキー会編集部　加藤良一